

編集の序

循環器内科は難しいという声を研修医から聞くことも稀ではありません。動脈硬化性疾患から不整脈、さらには心筋症に至るまで多くのバラエティに富んだ疾患を診療する循環器診療には、その扱う疾患の数にも対応して数多くの検査が用いられています。時には緊急で検査方針を立てる必要があることもあれば、鑑別疾患をじっくり考えて必要な検査を考えていくこともあります。循環器診療においてどの検査をどの順番で選んでいくのかは、患者のアウトカムを最適化するうえで必要かつ重要な場面であるといえます。

さて、本書、「循環器の検査 基本とドリル」は、循環器診療で登場する検査についてドリル形式で学習することを目的に作成されました。教科書から得られるような知識ではなく、実際の臨床に即した形式で、しかも問題形式を取り入れることにより実用的な知識が習得できることを期待しています。姉妹書である「循環器薬ドリル」と同じく、北里大学の医局員を中心に編集した本書は、当院での研修医に求められる知識を念頭に書かれたものとなりますが、もちろん多くの病院で共通認識とされるものが多いはずです。

循環器内科に限らず、すべての医学には本来の意味で唯一の正解とされるものはありません。診療に使えるリソースや時間的状况などにおいて、本書に記載された検査が必ずしも行えない状況も多くあろうと思います。しかし、基本的な考えがここには示されていますので、そこからの応用はやりやすいのではないかと思います。

最後に、本書は循環器にはじめて触れる研修医を対象に執筆されましたが、もちろんそれ以外にも学生やメディカルスタッフにも楽しく読んでいただけるのではないかと期待しております。本書が皆様のお役に立つのを心から祈っております。

2024年2月

北里大学医学部循環器内科学 教授
阿古潤哉